

	パネル展～結核予防週間 「知っていますか？『結核』が現代の病気だってコト。」
と き	9月21日(水)～9月30日(金) 午前8時45分～午後8時(30日は正午まで)
と ころ	練馬区役所本庁舎 2階通路
<p>練馬区で、21日から、9月の結核予防週間に関する取り組みとして、パネル展「知っていますか？『結核』が現代の病気だってコト。」が始まった。(30日まで、無料。)</p> <p>練馬区保健所では、結核患者の服薬支援等を行っているが、結核患者からは、「結核は昔の病気だと思っていた」「まだ結核なんて病気あったんだ」という声も。結核はもう昔の病気で、自分には関係ないと考えている人は少ない。</p> <p>結核感染の仕組みから発病、治療までをパネルで紹介。(パネルは公益財団法人結核予防会より借用)また、練馬区在住の結核患者(30歳代男性)や、結核患者の家族(40歳代女性)等の声を体験談として紹介。早期発見・早期治療の大切さや、結核は現代もある病気で決して他人事ではないことを伝えている。パネル展にあわせて、パンフレット「結核の常識」も配布。</p> <p>担当者は、「結核入院患者の中には、仕事や家庭のある働き盛りの若い人もおり、早く発見されていれば入院せずに通院治療で治る人もいる。2週間以上咳が続く場合は、早めに受診してほしい。」と呼びかけている。</p>	



パネル展の様子

【結核について】

結核は、治療の進歩により、早期に適切な治療を受ければ、障害が残ることなく回復し、周囲への感染を防ぐことにもなる。正しい知識を得て、ご自身や周囲の方の健康を守ることが大切である。結核患者数は、戦後著しく減少したものの、近年は横ばい傾向である。結核の治療を受ける場合は、医療費の公費負担制度がある。

【参考】結核患者数について(平成27年)

- 日本国内：18,280人
- 東京都内：2,306人
- 練馬区内：102人

練馬区内の結核患者は、半数近くを65歳以上の高齢者が占めているが、学生や20歳代～40歳代の働き盛り世代の発病もある。



配布中のパンフレット
 (出典：公益財団法人結核予防会)